2016/01/27掲載

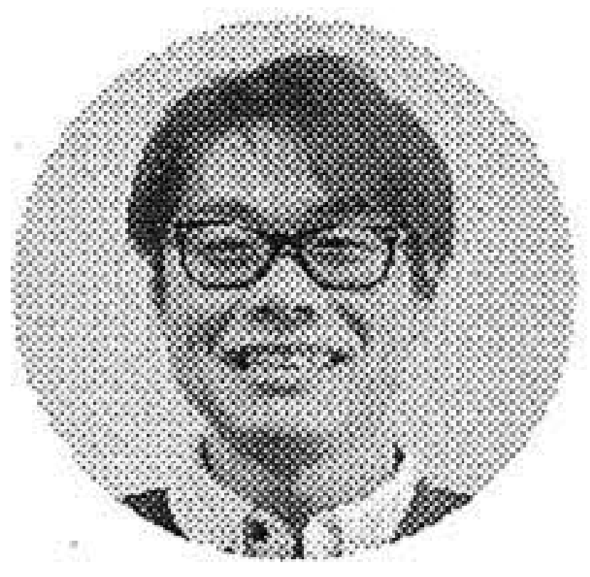
アズパートナーズ

生活リハビリの浸透図る

他職種連携チーム発足

アズパートナーズ（東京都千代田区）が運営する介護付有料老人ホーム「アズハイム」ブランドでは、サービスコンセプトとして質の高いリハビリを掲げている。機能訓練指導員から他職種へ連携を働きかけ、入居者が積極的に体を動かす仕組みを構築している。

植村健志
代表取締役



小川康弘
機能訓練
指導員

リハビリへの注力を前面に掲げている分、利用者が期待するサービス水準は高い。それに応える職員の技術水準の底上げ・平準化と職種間の連携を促すために、アズハイムの異なるホームから集まった他職種の職員で形成する事業統括部を発足した。これは元々、関東地区に14ある各ホームからホーム長、ケアマネジャー、看護師などが集まり情報交換を行っていたミーティングを強化したもの。それぞれの職員は各ホームで日頃の勤務を行っているが、定期的に会議の場を設けて、社内研修の組立や実施などを行っている。

▶リハビリの考え方を利用者の家族・見学者にも周知

その中の一人、小川康弘機能訓練指導員は理学療法士としての専門的な視点で生活リハビリの導入を働きかけている。同時に、介護職から見た入居者の生活上の変化や気付きを集約してトレーニングへ反映する。

「介護・看護職も関わり、入居者が1日に1度は身体を動かすよう働きかけています。医療依存度が高い利用者にも、食事の際に共同スペースに誘導して閉じこもりを防止しています」（小川機能訓練指導員）

小川機能訓練指導員が勤務する「アズハイム横浜いずみ中央」では、同ホームで行われている生活リハビリの取り組みを掲示物で紹介している。掲示物の内容は利用者の生活の様子と、そこに取り入れたリハビリのポイントを介護職員が説明するもの。

発信した情報が他職種連携の起点となることで介護職員の自信にもつながっているようだ。同社が運営する他のホームにも取り組みの範囲を広げていきたいという。

状態に合わせたリハビリ手法

アズパートナーズではスポーツクラブを運営するセントラルスポーツ（同中央区）との提携も行っており、比較的自立度の高い利用者が参加する運動プログラムも取り入れている。

小川機能訓練指導員は「個人の状態に合わせて体力測定、集団体操、個別機能訓練、生活リハビリの4つの手法を取り入れています。家族が手厚いメニューを熱望することは多いですが、まず当人の気持ちを考慮し、特にリハビリに積極的な人に、その要望にあった訓練ができるようにしています」と話す。

「職種や事業所の枠を超えて会社全体を盛り立てる彼の姿は、ほかの機能訓練指導員の仕事への関心も高めています」（シニア事業部営業企画部西川義久チーフ）

電話で終活相談
岡山で受付開始

ベクトル（岡山市）は1月14日、富裕層向けの新型終活支援サービス「ベクトルプレミアム」の提供を開始した。

税理士、弁護士、不動産鑑定士や金融機関などの専門家のネットワークを構築して、高齢者の生活相談から相続、贈与、事業継承、保険や資産の運用売却など専門的な内容まで一つの窓口で電話対応する。

サービスの提供範囲は岡山県内。今後、全国の主要都市への展開も視野に入れる。

老服务发展有限公司でも中国事業の1年の総括会議を行いました。

中国では60歳以上の高齢者が1・7億人（全人口の13％）おり、年間600万人の高齢者が増えていく巨大市場です。しかし介護市場の整備はまだまだで介護保険がなく、ヘルパー人材、介護施設の不足など多くの問題があります。

弊社教育事業のヘルパー養成研修学校では去年約700名が受講し、初級・中級栄養管理士に513名の資格者を出し、研修合格率

っていき、上海での介護人材育成の大きな基盤つくりをしていく年になります。

去年、研修学校では海介護技能コンテストを上海浦東新区民生局からの依頼で実施し、大きな成果になりました。介護技能コンテスト前の事前講習も開催し、日本から講師8名を派遣し日本の介護を学びたい参加者が120名になりました。

中国の政策の9073（90％在宅介護、7％デイサービス等、3％老人ホーム）にあるように在宅介護、

ヘルパー研修生1000

去年の5月には中邦養老養生ホテルの運営受託を行いました。ホテル構成は4棟からなりホテル棟44室（80平米～130平米）シニア健康棟21室（70平米～120平米）介護棟15室（25平米～40平米）離れ8室（50平米～80平米）の4棟から構成され、付帯設備として会議室、美容室、レストラン、BAR、プール、サウナ、ジャグジー、トレーニングジム、エステ、ヨガスタジオ、マッサージルーム、娯楽として映画館、ビリヤード、マージャン室、パターゴルフ場などがあり超高級施設です。

今年は上海でデイサービス3カ所、老人ホーム運営受託2カ所、ヘルパー研修生1000名の教育を社員みんな目標として決意新たに致しました。

中国の
高齢
マーケッ
～介護・不

著者プロフィール
ゲストハウス社長。200
関西圏で展開。中国市
会社設立。

ワークシェア活用事例紹介

タムラ企画（東京都千代田区）主催の「第95回『高齢者の豊かな生活空間開設に向けて』研究会」が1月14日に都内で開催された。

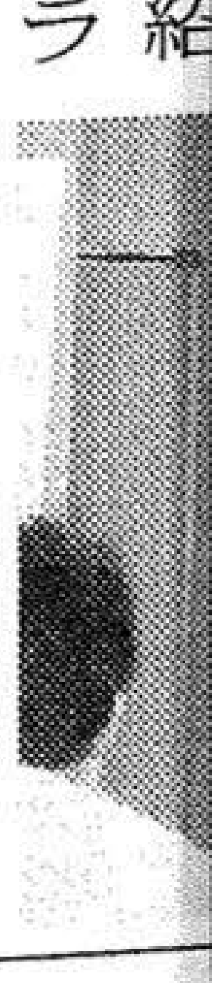
テーマは「『デイサービスの今後の方向性を考える』～独自化と質の向上、選ばれるデイ～」。

昨年4月の介護報酬改定を受けて、特徴的なサービスを実践する事業者の事例を共有し、今後生き残るデイサービスの方向性を紹介した。

DAYS　BLG!N

にしたデイサービスを紹介。利用者が有償のボランティアで、ジャガイモの芽取りや玉ねぎの皮むきなど下処理を行った野菜の販売を行う取り組みなどに触れて要介護者の中心が団塊の世代に移りゆく中で利用者に他社とのサービスの違いを説明する必要性を説いた。

エムダブルエス日高（群馬県高崎市）の北嶋史誉代表取締役は自社が開設した多彩なアクティビティを自由に選べる超大型のデイサービスについて説明した。職員用の学童保育を設けたり、夜間に施設のスポーツジムを高校生に開放したりして、充実した施設を活かした多世代を呼び込む仕組みを展開していることも紹介した。



医療・介護施設に特化した設計集団です